

農山漁村地域整備交付金の 事後評価について

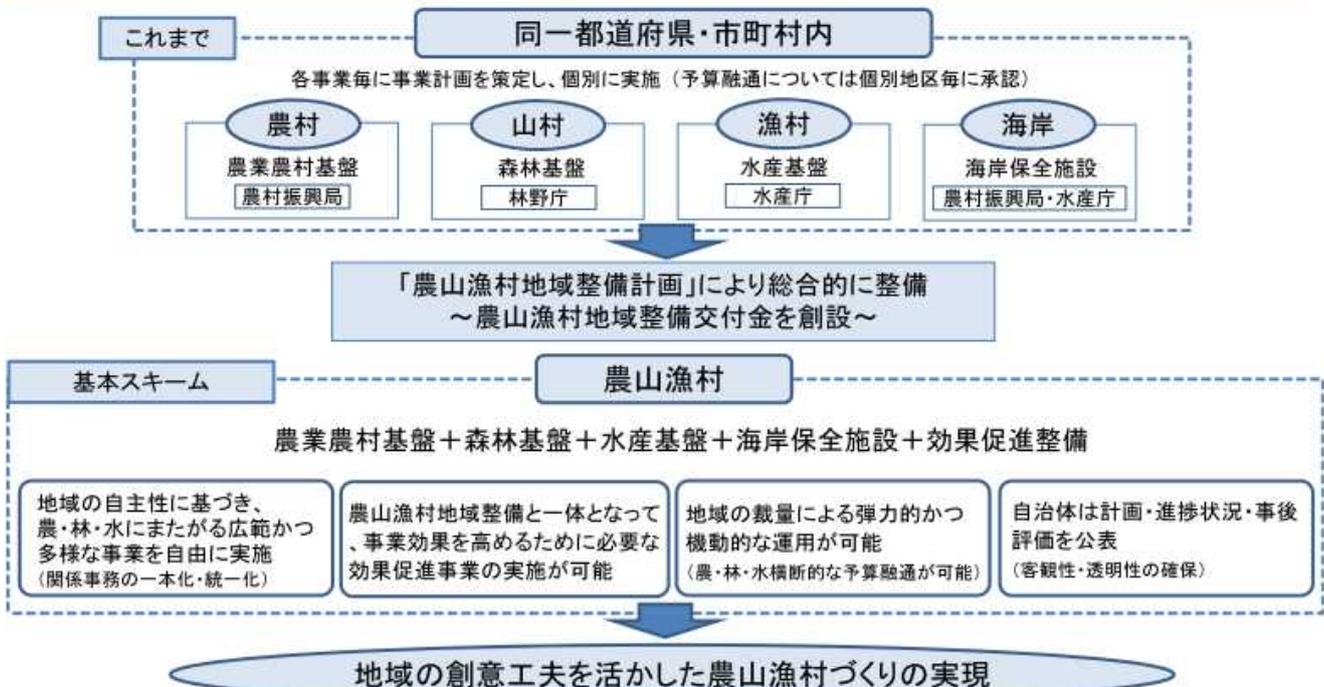
琵琶湖と人々の暮らしを支える
森林整備計画

令和7年1月20日

滋賀県 琵琶湖環境部 森林保全課

農山漁村地域整備交付金の概要

- 地域の創意工夫を活かした農山漁村地域の総合的な整備を進めるため、農業農村、森林、水産の各分野でそれぞれが実施してきた既存制度を抜本的に見直す。
- 自治体が農山漁村地域のニーズにあった計画を自ら策定し、農林水産省の各公共事業を自由に選択できるとともに、自治体の自由な創意工夫によるソフト事業も実施可能な、自由度が高く、使い勝手の良い新たな交付金を創設。



農山漁村地域整備計画とは

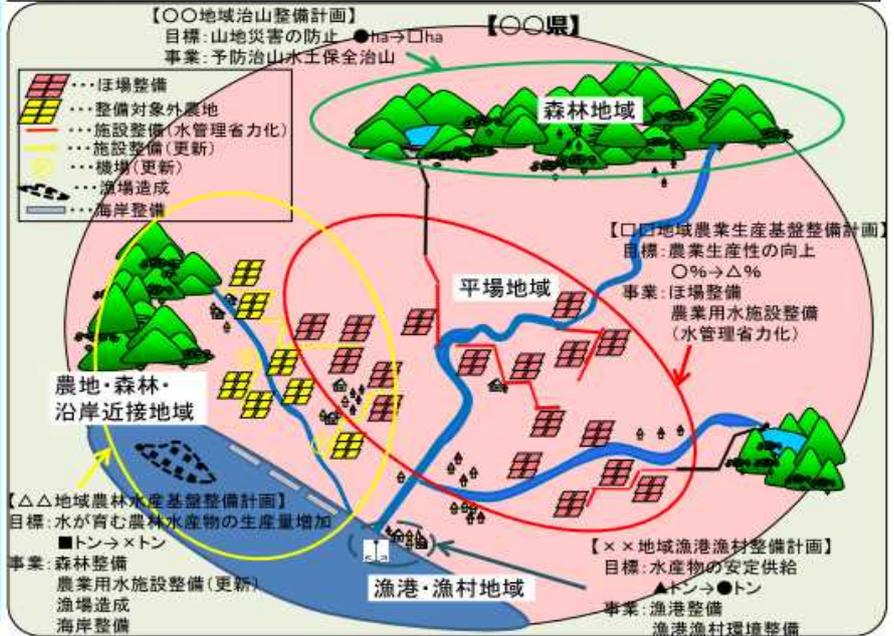
- 地域の実情に応じた整備が可能となるよう地方の自由度が高い計画策定を基本(計画の範囲等は地方が決める)
- 簡素を旨とした計画内容

農山漁村地域整備計画の概要

- (1) 計画の名称
- (2) 計画策定主体
[都道府県、市町村]
- (3) 対象市町村
[計画策定範囲内の市町村名を記載]
- (4) 計画の期間
[おおむね3～5年の計画期間を記載]
- (5) 計画の目標
[事業の実施により実現しようとする目標を記載]
- (6) 評価指標
[計画の目標の実現状況等を評価するための指標を記載]
- (7) 交付対象事業
[計画に位置づける個別の事業地区を記載]

■計画のイメージ例

地方公共団体が、地域の実情に応じて計画エリア・目標を設定し、その目標達成に必要な事業を計画に位置付け。



3

本県森林地域における農山漁村地域整備計画

(1) 計画の名称

琵琶湖と人々の暮らしを支える森林整備計画(第3期)

(2) 計画策定主体

滋賀県

(3) 対象市町村

県内19市町

(4) 計画期間

令和2年度 ～ 令和6年度(5カ年)

※ 第1期が平成22年～26年、第2期が平成27年度～令和元年度、現在は第3期

本県の自然環境について

- 琵琶湖を中心として平野が広がり、外側を分水嶺が取り囲む、同心円状の地勢
- 河川は延長が短く急勾配、出水しやすく濁水にも見舞われやすい
- 山地の風化しやすい地質条件と相まって、多くの天井川を形成
- 山に囲まれた地形条件などから局地的な集中豪雨が発生しやすい



国土数値情報を元に作成
1 森林区域（灰色）が外縁部を囲いその内側に丘陵地（緑色）、中心の琵琶湖へ河川（青色）が流れ込む。

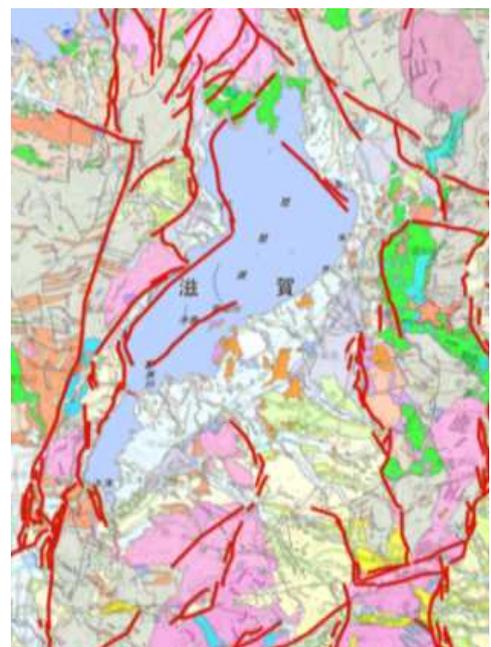
滋賀県の地形

5

本県の自然環境について

- 地震発生と密接な関わりをもつ活断層の分布密度が高い
- 地域住民の生命や財産に影響を及ぼす土砂災害や水害などが発生しやすいだけでなく、閉鎖性水域である琵琶湖の生態系や水質に影響しやすい土地条件を備える

☆近年の豪雨災害等の大規模化
森林に対する防災機能への期待が高まっている



花崗岩（桃色）、堆積物（黄緑、薄黄色）
活断層（赤色線）が多く存在する。

地質と活断層

6

本県の森林現状と課題について

○本県の森林は県土面積の約半分

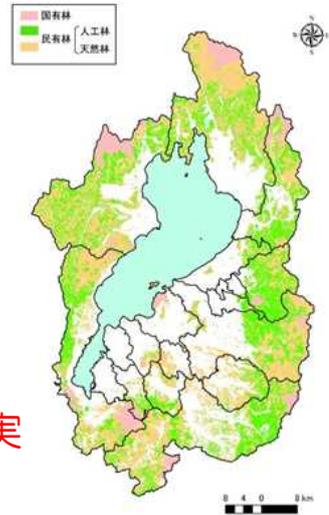
木材生産のほか水源涵養、県土保全、CO2吸収源など多面的な役割がある

○人工林の成熟により、利用可能な木材資源は充実

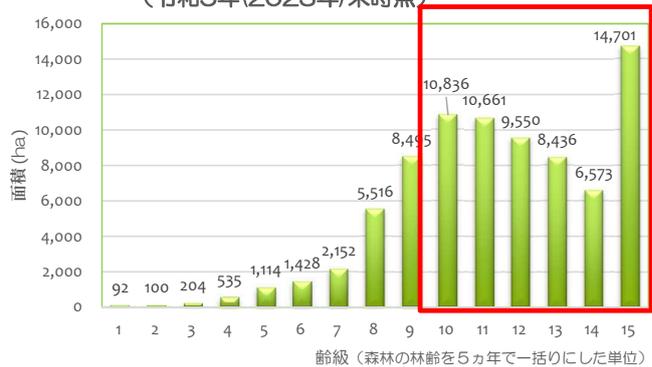
全体の3/4が伐期を迎えており、これまでの資源の造成期から、現在は資源の利用期へと本格的に移行している

○木材搬出コストの低減が必要

森林施業（主伐・利用間伐等）を効果的かつ効率的に実施するために不可欠な、路網整備が求められている



民有林における人工林の齢級別面積
(令和5年(2023年)末時点)



7

滋賀県琵琶湖森林づくり条例の理念を実現するための基本的な計画

琵琶湖森林づくり基本計画 (第1期：平成17年度～令和2年度)
(第2期：令和3年度～令和12年度)

琵琶湖森林づくり条例の理念の実現に向け、施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画

基本方向と基本方針（第1期）

方向：琵琶湖と人々の暮らしを支える森林づくりの推進
方針：多面的機能の持続的な発揮に重点をおいた森林づくり
県民全体で支える森林づくり

基本施策

(1) 環境に配慮した森林づくり (2) 県民協働による森林づくりの推進

(3) 森林資源の循環利用の促進 (4) 次世代の森林を支える人づくりの推進

8

～滋賀県の森林づくりについて～

琵琶湖森林づくり基本計画 第1期（計画期間H17～R2）
（H31.3月見直し）

基本の施策の
一部を本交付
金事業で実施

1. 環境に配慮した森林づくり
2. 県民協働による森林づくりの推進
3. 森林資源の循環利用の促進
4. 次世代の森林を支える人づくりの推進



森林づくりは、森林の多面的機能が持続的に発揮できるよう、施策の総合的かつ計画的な推進を図ることが重要である。

また、森林づくりは、長期的に着実に進めていく必要があるため、農山漁村地域整備計画の指標はこの計画の基本施策を反映させている。

9

琵琶湖と人々の暮らしを支える森林整備計画 について（農山漁村地域整備計画）

本県森林整備の基本的な考え方

持続的な資源利用、水源涵養機能維持、流木・流出土砂対策をはじめ二酸化炭素吸収源などの森林の多面的機能の効果的発揮

森林の健全な育成・管理および利用が必要

計画の目標

◎森林の多面的機能を十分に発揮させる

⇒①災害に強い森林づくり [治山事業、漁場保全の森づくり事業]

◎木材資源の循環利用を目指す

⇒②森林整備の基盤づくりと森林施業の推進

[森林整備事業 (造林、林道、絆の森事業等)]

10

交付対象事業

②森林整備の基盤づくりと森林施業の推進

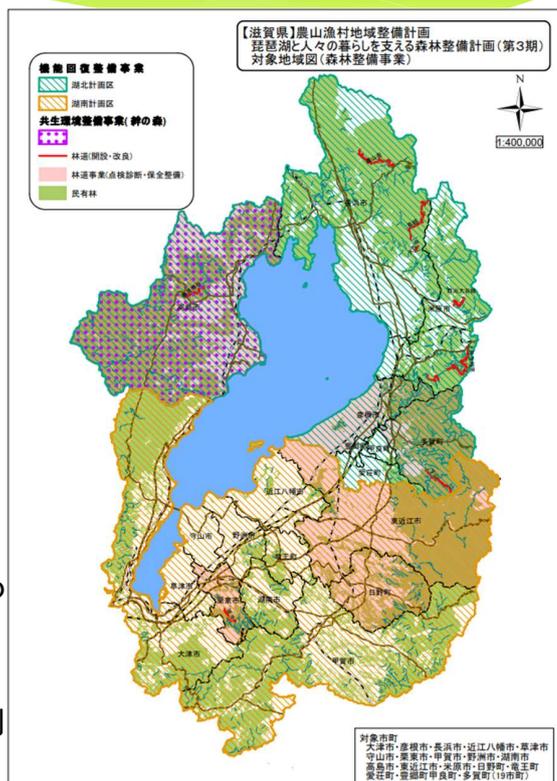
森林整備事業

(1) 林道事業

- 目的
計画的な森林整備の基盤となり生活環境の改善にも資する路網の整備
- 具体的内容
林道の開設、改良、施設の点検診断等

(2) 造林事業（機能回復事業-花粉発生源植替え、絆の森整備事業）

- 目的
花粉発生源の抑制や身近な森林に対する市民活動への対応
- 具体的内容
スギ林の伐採や少花粉スギの植栽、里山等での樹林の整理伐採や下刈り



13

①災害に強い森づくり（保安施設事業の事例紹介）

「治山事業」（緊急防災減災対策総合治山事業）

平成30年7月豪雨により、荒廃した山腹斜面から濁水が集落内の市道に流出した。山腹工（山腹基礎工、山腹緑化工、水路工）を施工し山腹斜面の安定化を図った。

整備箇所：米原市清滝

事業費：290,000千円

整備内容：山腹工 0.11ha

計画期間：R2年度～R6年度



林内荒廃発生状況



実施後

14

①災害に強い森づくり（保安施設事業の事例紹介） 「治山事業」（予防治山事業）

近年の豪雨等による溪流荒廃が顕著に進んでいる箇所において、不安定土砂の流出を防止するため、治山施設（谷止工）を整備した。

整備箇所：日野町原
整備内容：谷止工4基

事業費：85,000千円
計画期間：R2年度～R6年度



実施前



実施後

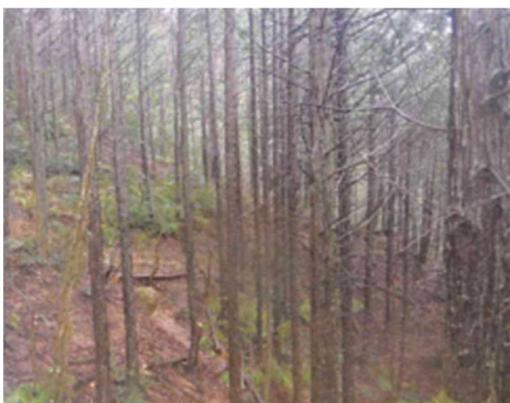
15

①災害に強い森づくり（保安施設事業の事例紹介） 「漁場保全の森づくり事業」（保安林改良事業）

過密化等により水土保持機能が低下した保安林であって、土砂の流出を発生させるおそれがあるため、本数調整伐を実施し、現地採取木材で筋工により下層植生の導入を図り、漁場への濁水の流入を抑制した。

整備箇所：甲賀市甲南町塩野
整備内容：森林整備 10.00ha

事業費：4,980千円
計画期間：R2年～R3年



実施前



実施後

16

定量的指標の成果

①災害に強い森林づくり（保安施設事業（治山事業等）） 「山地災害危険地区における対策着手率の増加（％）」

当初 54.46%（令和元年度末） → 目標 55.00%（R6年度末）

主な事業内容 （見込）	事業開始前 整備割合	R6年度末 整備割合（見込）	達成割合
治山ダム工 68 基 山腹工面積 0.57 ha 森林整備面積 93 ha	54.46%	54.95%	目標概ね達成 91%

- 現地の荒廃状況に応じて各年度ごとに事業計画を立て、この交付金事業を使うことにより治山事業の進捗促進を図り、概ね目標を達成することができた。
- 達成割合の概要
 - ・ 治山事業は突発的な災害や地元要望により、常に新規の山地災害危険地区で実施できるとは限らないため、100%には達しなかった。
 - ・ 現在の山地災害危険地区総数が2344箇所と計画当初時より12箇所増加していること。

17

②森林整備の基盤づくりと森林施業の推進 （森林整備事業の事例紹介）

「林道事業」（フォレストコミュニティ・総合整備事業）

路線： 森林基幹道上丹生柏原線
事業費： 293,044千円
整備内容： 開設延長 782m
計画期間： R2年度～R6年度

素材生産活動推進のための基盤として路網は不可欠であり、米原市において基幹的な林道の開設に取り組んだ。



開設区間



林道利用状況

18

②森林整備の基盤づくりと森林施業の推進

(森林整備事業の事例紹介)

「造林事業」(機能回復整備事業)

スギ・ヒノキは我が国において古くから利用されてきた樹種であるが、昭和50年代ごろからスギ花粉等を原因とする花粉症患者が急増し社会問題となっている。

発生源の対策として成熟したスギ林等の伐採と花粉の少ない苗木を植栽している。

整備箇所：長浜市ほか6市町

事業費：558,824千円

実施面積：49.75 ha

計画期間：R2年度～R6年度



一般的なスギ



花粉の少ないスギ

19

②森林整備の基盤づくりと森林施業の推進

(森林整備事業の事例紹介)

「絆の森整備事業」

史跡清水山城館跡は近江源氏：佐々木氏の城として知られているが、周辺は雑木が藪化しており、倒木等による遺跡破壊のおそれもあった。

そこで、歴史や自然に親しめる環境づくりと遺構を適切に維持管理する目的で、除伐・下刈り等の森林整備を実施した。

整備箇所：高島市新旭

事業費：5,040千円

実施面積：18.97ha

計画期間：R2年度～R6年度



実施前



実施後

20

定量的指標の成果

②森林整備の基盤づくりと森林施業の推進

「森林整備の基盤として整備された林道の路線延長」

目標1：計画期間（5カ年）中の整備延長 2,000m

主な事業内容 (見込)	6年度末（5カ年） 整備延長（見込）	達成割合 (%)
林道開設延長 1,650 m 林道改良 378 m	2,028m	目標達成 101%

- 林道開設（3路線）および既設林道の改良等により、効率的な森林整備の基盤づくりが進んだ。
- 目標達成の要因の一つとして、令和3年度に作成した個別施設計画に基づき点検診断が実施され、それに基づき改良事業が進んだことが挙げられる。

21

定量的指標の成果

②森林整備の基盤づくりと森林施業の推進

「花粉発生源林の植え替え面積の増加」

目標2：計画期間（5カ年）中の植え替え面積 3.0ha

主な事業内容 (見込)	6年度末（5カ年） 植え替え面積（見込）	達成割合 (%)
花粉発生源林の植え替え	49.75 ha	目標達成 1658%

- スギ、ヒノキ林の伐採を進め併せて少花粉苗を植栽することで花粉発生源の抑制と適切な森林整備を実施した。
- 目標達成の要因の一つとしては、計画期間中に国の主伐再造林と花粉症対策が大きく進展したため、少花粉苗木の使用や発生源対策への状況が整ったことが考えられる。

22

事業効果の発現状況

①災害に強い森林づくり

「保安施設事業」（治山事業・漁場保全の森づくり事業）

森林の荒廃状況に応じて計画的に保安施設整備を実施したことにより、実施個所における林地保全が図れた。定量的指標としては概ね目標達成ができた。

②森林整備の基盤づくりと森林施業の推進

「森林整備事業」（林道事業・造林事業・絆の森整備事業）

林道開設や林道改良及び、林道橋等の点検診断や保全整備を実施することにより、森林整備の基盤づくりが進み目標達成ができた。

また、花粉発生源林の植え替えについては想定以上の進捗がみられた。

23

計画の進捗について

事業名	当初 (R2年度)	実績見込 (R6年度)	備考
	総事業費 (百万円)	総事業費 (百万円)	
治山事業	2,050	1,848	緊急防災減災対策総合治山、予防治山事業等
漁場保全の森づくり事業	70	32	保安林改良事業
森林整備事業	880	1,299	絆の森整備事業 林道事業等
計	3,000	3,179	

- 当初計画時点からの金額ベースの進捗は106%
- 事業により本計画期間中に実施できなかった箇所については、次期計画において引き続き取り組んでいく予定

24

今後の方針（案）

琵琶湖と人々の暮らしを支える森林整備計画

今後も、農山漁村地域整備交付金及びその他補助金を活用しながら、「琵琶湖森林づくり基本計画」に基づき、琵琶湖と人々の暮らしを支える滋賀県の森林づくりに努める。